

問1 アジア州とアフリカ州の人口に関する統計上の特徴について、人口の「実数（数そのもの）」と「増加率（増える勢い）」の観点から正しく説明しているものはどれですか。アジア州が約44.2億人、アフリカ州が約11.9億人という現在の人口規模と、1950年からの推移に着目して答えなさい。（2020年 山形県公立入試 類似）

- | | | | |
|--|--|-----------------------------------|------------------------------------|
| 1. アジア州は人口の実数において世界最大であるが、増加率ではアフリカ州の方が高い。 | 2. アフリカ州は人口の実数において世界最大であるが、増加率ではアジア州の方が高い。 | 3. アジア州は人口の実数も増加率も、すべての州の中で最大である。 | 4. アフリカ州は人口の実数も増加率も、すべての州の中で最大である。 |
|--|--|-----------------------------------|------------------------------------|

問2 「信濃小倉」という名称の2万5千分の1の地形図において、標高805mの室山の山頂から、その南西方向にある標高約775mの神社まで移動したとする。この二地点間の標高差を等高線に基づき算出した記述として、適切なものはどれか。（2017年 茨城県公立入試 類似）

- | | | | |
|-------------------------------------|---------------------------------------|--|---|
| 1. 山頂の805mから神社の約775mを引き、標高差は約30mである | 2. 2万5千分の1の縮尺に従い、30mを25,000倍して標高差を求める | 3. 主曲線の間隔は10mであるため、標高805mから等高線を1本挟むと標高差は50mになる | 4. 標高が高い地点から低い地点へ移動しているため、距離に関わらず標高差は0mとみなす |
|-------------------------------------|---------------------------------------|--|---|

問3 地球儀を使って方位を確認する学習において、東京を通る経線に沿ってテープを貼り、さらにそのテープと東京で直角に交わるように別のテープを貼りました。この直角に交わったテープを、ユーラシア大陸側（中央アジア付近）へとたどった場合に示される方位として正しいものはどれか、次から選びなさい。（2021年 岩手県公立入試 類似）

- | | | | |
|------|------|------|------|
| 1. 西 | 2. 東 | 3. 南 | 4. 北 |
|------|------|------|------|

問4 地形図において、2本の警棒を交差させたような「×」の記号で表される施設として正しいものはどれですか。（2018年 香川公立入試 類似）

- | | | | |
|--------|--------|--------|--------|
| 1. 警察署 | 2. 消防署 | 3. 税務署 | 4. 裁判所 |
|--------|--------|--------|--------|

問5 北アメリカ大陸を南北に縦断する西経100度の経線があります。この経線に対して、地球のちょうど反対側を通る「対蹠点（たいせつてん）」の経線として正しいものはどれですか。（2019年 福島県公立入試 類似）

- | | | | |
|----------|-----------|----------|-----------|
| 1. 東経80度 | 2. 東経100度 | 3. 西経80度 | 4. 東経180度 |
|----------|-----------|----------|-----------|

問6 太平洋を東（アメリカ大陸側）から西（日本側）へ向かって飛行機で移動し、日付変更線を越える際に行う日付の調整として、正しいものはどれですか。（2026年 北海道公立入試 類似）

- | | | | |
|--------------------------|---------------------------|------------------------|-------------------------|
| 1. 日付を一日進める（例：5日から6日にする） | 2. 日付を一日遅らせる（例：5日から4日にする） | 3. 日付は変えず、時刻のみを12時間進める | 4. 日付は変えず、時刻のみを12時間遅らせる |
|--------------------------|---------------------------|------------------------|-------------------------|

問7 地球の表面は、陸地が約3割、海洋が約7割の比率で構成されています。海洋の中でも「三大洋」と呼ばれる広大な海域のうち、北アメリカ大陸、南アメリカ大陸、ユーラシア大陸、オーストラリア大陸に囲まれ、地球の全表面積の約3分の1を占める世界最大の海洋を選びなさい。（2026年 鹿児島公立入試 類似）

- | | | | |
|--------|--------|---------|--------|
| 1. 太平洋 | 2. 大西洋 | 3. インド洋 | 4. 北極海 |
|--------|--------|---------|--------|

問8 各国のエネルギー消費と発電事情について述べた次の文のうち、2021年の統計的傾向に照らして正しいものはどれか。（2025年 山口公立入試 類似）

- | | | | |
|--|---|--|---|
| 1. アメリカ合衆国は一人当たりの電力消費量が1万2000キロワット時を超えており、生活様式や産業構造の影響で電力消費が非常に多い。 | 2. フランスは再生可能エネルギーによる発電が全体の約7割を占めており、火力発電や原子力発電への依存を完全になくしている。 | 3. 中国は石炭を燃料とする火力発電の割合が高いが、一人当たりの電力消費量はすでにアメリカ合衆国の2倍以上に達している。 | 4. アメリカ合衆国は広大な国土を利用した水力発電が最も主要な電源となっており、火力発電の割合は10パーセント未満である。 |
|--|---|--|---|

答え合わせ・解説

問1	答え 1 アジア州は人口の実数において世界最大であるが、増加率ではアフリカ州の方が高い。	アジア州は14億人から44億人超へと膨大な人口を抱えるに至り、世界全体の人口の過半数を占める「実数として最大」の州です。しかし、1950年を基準とした増加の割合（増加率）で見ると、アフリカ州の勢いが最も顕著です。アフリカ州は同時期に人口が約5倍に急増しており、これはアジア州の約3倍という増加ペースを大きく上回ります。入試では「最も人口が多い州」と「最も人口増加率が高い州」の取り違えを誘う問題が多いため、この区別が重要です。
問2	答え 1 山頂の805mから神社の約775mを引き、標高差は約30mである	地形図における標高差は、単純に二地点間の標高値の差を計算することで求められる。本問では805m（山頂）と約775m（神社付近）の差であるため、約30mが正しい。2万5千分の1の地形図において、等高線の主曲線は10mごと、計曲線は50mごとに引かれているため、これらの線の本数を数えることで標高差を把握することができる。縮尺は水平方向の距離を縮小したものであり、垂直方向の標高差には直接掛け合わせない点に注意が必要である。
問3	答え 1 西	地球儀において、ある地点を通る経線は南北の方向を示しています。この経線に対して直角に交わる線をたどることは、緯線に沿って移動することと同じであり、その方向は東または西を示します。東京を起点としてユーラシア大陸側（左側）へ向かう場合は、方位の定義に基づき西となります。
問4	答え 1 警察署	警察署の記号は、警察官が携帯していた2本の警棒を交差させた形をデザインしたものです。混同しやすい消防署の記号は、江戸時代の火消しが使っていた「さすまた」という道具の形をモチーフにしており、円の中に「×」が描かれたような形状をしています。
問5	答え 1 東経80度	地球のちょうど反対側の経度を求めるには、もとの経度と反対側の経度の和が180度になるように計算し、東経と西経を入れ替えます。この場合、180度から100度を引いた80度が導き出され、西経の反対は東経となるため、東経80度が対蹠点の経線となります。
問6	答え 1 日付を一日進める（例：5日から6日にする）	日本を含む東半球は、アメリカなどの西半球よりも時刻が早く進んでいます。日付変更線を東から西へ（日本方面へ）越えるということは、より時刻が進んでいる地域に入ることを意味するため、日付を一日進める調整が必要になります。逆に西から東へ越えるときは、日付を一日戻します。
問7	答え 1 太平洋	地球上の海洋のうち、特に面積が広い太平洋、大西洋、インド洋を「三大洋」と呼びます。太平洋はその中で最大であり、面積は約1億6000万平方キロメートル以上に及びます。これは地球全体の表面積の約33%に相当し、全ての陸地面積を合計したのものよりも広い面積を持っています。
問8	答え 1 アメリカ合衆国は一人当たりの電力消費量が1万2000キロワット時を超えており、生活様式や産業構造の影響で電力消費が非常に多い。	アメリカ合衆国は広大な国土での移動や冷暖房需要、大量消費型のライフスタイルなどを背景に、一人当たりの電力消費量が極めて多いのが特徴です。一方、中国は国全体の電力消費量は膨大ですが、人口も多いため、一人当たりの消費量で見るとアメリカ合衆国の方が高い水準にあります。